

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第135号(2018. 6. 1)
事務局 川西地区自主防災会

～ あれから7年… ～

株式会社山倉建設 代表取締役社長 山倉 康平

訪れる度に街は変わり、被災を受けた故郷の面影も変貌しています。

失われた自然、被災を受けた故郷。

昨年までは頻繁に大型ダンプが横行していましたが、その数は随分と少なくなり、整備された広い荒野だけになっています。これから整備計画に基づき、公園等ができるでしょう。

まだ緑の少ない被災地現場には、4～5階建ての復興住宅が立ち並び、多くの人の新しい生活が始まっています。

被災地の平野部分では、ほとんど住めなくなり、丘陵地帯にそびえる中層復興住宅地は、坂道が多く、高齢者にとっては、毎日の生活は厳しいものがあるようです。

この7年の間、避難所、仮設住宅、復興住宅、引っ越しと3回もあり、蓄財のある方は自力で家を建てられています。まだまだ新しい生活に馴染むのは時間がかかるようです。

大川小学校を訪問した時、被災されたときに小学校6年生のお子様を亡くされた保護者の方から、今回はゆっくりとお話しを伺うことができました。

何回も訪れた大川小学校で知ることができた初めての事実

昨年までの説明では、学校の周辺は家が密集して裏山に逃げるのは、急斜面でもあり無理だったと聞いておりましたが、実際は学校の授業で裏山に上がっており、登り口は緩やかでした。

震災発生時、津波が来るまで40分以上の時間があり、当時6年生は裏山の中腹の平らなところに全員が上がっていたのですが、その時の教員の指示により、下山を余儀なくされたことがわかりました。

語り部の保護者の方は、全ての関係者が事実を凝視してからこそ、被災された多くの方々の経験が未来に向けて活かされると語っていました。



保護者の目には、未だ深い悲しみと無念さがにじんでおり、胸を打たれました。

参加した生徒の皆さんには、震災から年月が過ぎても心に傷を負った被災者の皆さんが、懸命に生きている姿が心に残ったようです。

毎回訪問させていただく石巻市名振第二仮設住宅においても、皆さん引っ越しをされていて残り2世帯のみでした。

訪問の当日の夜には、多くの住民の皆さんがわざわざ戻って来られ、1年ぶりの再会に親交を深めることができました。毎年再会を楽しみにしていますと声をかけていただき、仮設住宅の皆さんの『笑顔』に、逆に訪問した生徒さん達は、多くの学びと元気をいただいているようでした。



生徒や私達一人一人がお役に立てることは些細なことですが、みんなで力を合わせれば喜びも大きく、お役立ちの意味も体得の一助けになっているのではと思います。

四国は南海トラフ大地震が想定されています。

参加された生徒さん達は、これから何が必要か、そして私達は何かができるのか？生徒たちの心に投げかけられたと思います。

うどん県青少年被災地「絆」交流隊 活動状況

1. 平成30年3月30日～4月2日

2. 参加人数 中高校生28名 大人7名 計35名

3. 訪問地及びスケジュール

3月30日 1日目 丸亀市役所発 → 北陸道 → 新潟泊 PM1:30着

3月31日 2日目 新潟発 → 磐梯SA休息 → 石巻市門脇小学校 →
石巻市大川小学校 → 石巻市雄勝町名振第2仮設住宅
仮設住宅にて、地元の皆様と交流、宿泊

4月 1日 3日目 南三陸町志津川中学校校庭
当時の説明を材田先生より受ける。
南三陸サンサン商店街にて昼食
後、帰路

2日 4日目 AM7:00 丸亀市役所到着



事前にうどん炊出し練習とプラン作り

3月30日出発日 丸亀市役所にて



3/31 名振第2 仮設住宅にて



3月31日 大川小で語り部活動をしている鈴木さん、自身の小6の娘さんを亡くしています

参加された子供達の作文より

○被災地の今の現状が私達に伝わっていないということがわかりました。

この活動に参加する前は、どのようなことがあって、どのように多くの方がなくなったかあまり理解していませんでした。被災地ではみんなが命に関わる大きな決断を強いられて、命を守ろうと必死だったとわかりました。震災の悲惨さ、命の尊さを学べたととても良い活動になったと思います。・・・

石巻市では、海に沿って堤防ができ、次に起こるかもしれない地震や津波への対策がもう進んでいました。自然災害はいつどこで起こるかはわかっていないので、それに備えて防ごうとする『防災』が大切だと改めて思いました。

(香大付属坂出中 Hさん)

○今年で4回目です。過去にもいろんなことを学び、いろんなものを得ることができました。

ですが、今回は過去3回の中で一番内容が濃かったと思います。・・・

見せていただいた資料から、幼稚園側の不手際に関する事で、幼稚園のバスの運転手だけが生き残ったと書いていました。津波に遭った時に運転手はバスから逃げ、子供達の事をバスの中に締めたまま一人幼稚園に戻るわけです。戻った後も津波の被害に遭ったことも告げず子供達の捜索に一切協力しませんでした。園長は「家に帰すまでが責任です。」と言っていたのに実際はこんなにも無責任なんだと思いました。

語り部の方が「人間は失敗を隠したがる」と言っていました。・・・失敗を

隠さずにとというのは他人からしたら当たり前かもしれませんが、いざ自分がそういった状況に立たされると案外難しい事なのかもしれません。それが僕の生きていく上での課題であることを今回見つけた気がしました。4日間で自分の論理的な意識が変わったような気がします。(参加者 無名)



3月31日 石巻復興地にてみどりの活動

○今回で4回目の参加でした。昨年同様被災地の今の現状を視察することと被災地の方々に精一杯元気を届けるということを中心に活動してきました。門脇小学校で佐藤さん、村岡さんの話を聞いて、復興まちづくり情報交流館に行き、震災前の模型や震災前後の写真を視察しました。仮設住宅で、なによりもうれしかった事が、昨年お会いした方々が覚えていて



3月31日 石巻被災地全景

くれた事です。仮設住宅では、うどん炊きをしたり、被災地の方々と交流したり、出し物を披露したりしました。今回も東北の方々に笑顔を届けられたと思います。 (坂出工業高校 Mさん)

- 戻りたくても戻れない生活があり、震災前に住んでいた場所に家も建てられず、それでも今を受け入れ、前に向かって歩いていくことの大切さに納得できました。私達の当たり前のことを普通だと思わず、幸せなことであると感謝する気持ちになった貴重な体験でした。震災で学んだことを時に思いだし、人に語り続けることが大切な人の命を守る最良の方法であると思いました。 (琴平高校 Yさん)

- 東北の現状は、復興団地が増え、復興が進んでいました。しかし、震災前の街の風景は戻ってきません。現地の方にとってそのことが最も悲しい現実であると思いました。津波の高さを知らせてくれる看板も出来ていました。それを見ると津波の怖さがわかりました。今の自分達に出来ることは、震災があったということや語り部さんの気持ちを忘れないで、次に起こる大震災に備えて自分たちが一番に考えていかなければならないと思いました。

(丸亀高校 Tさん)



遺品バスの中から見つかった園児の靴、6人の園児が犠牲に



3月31日仮設住宅清掃活動



3月31日仮設住宅夕食準備



4月8日どろんこ亭にて地元皆さんに報告会

～ 着任のご挨拶 ～

香川県危機管理総局長 土岐 敦史

皆様、初めまして。本年4月に危機管理総局にまいりました、土岐敦史と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

岩崎会長様はじめ、「かがわ自主ぼう連絡協議会」の皆様には、日頃から、各地域での防災・減災活動にご尽力をいただいているところであり、心より感謝申し上げます。

さて、南海トラフ地震について、政府の地震調査委員会は、今年2月に、今後30年間の発生確率が70～80%になったと公表しており、まさしくいつ起きてもおかしくない状況にあります。また、一昨年の熊本地震に続き、先月の島根県西部地震など内陸での地震も続発しており、昨年7月の九州北部豪雨のような大規模な風水害も毎年のように起きております。大きな災害は、実は私たちのすぐ身近にある、と改めて感じているところであり、私といたしましては、こうした時期に危機管理の仕事に携わることとなり、身の引き締まる思いでございます。

先日、東日本大震災からの復興の映画を拝見する機会がありました。震災から7年が経過し、被災地も悲しみを乗り越えて新たな歩みを始めていますが、その中心となっているのは、やはり地域の人々のつながり、絆でした。私たち行政も全力で防災・減災に取り組みますが、地域を守る力は、地域の中にしかないということを痛感したところです。この意味で、皆様方、自主防災組織の存在は大変重要であり、今後さらに多くの方々にご参加いただき、ますます活性化が図られることを心からご期待申し上げるとともに、ともに力を合わせて来るべき災害への備えを強化してまいりたいと存じます。

結びに、協議会の一層のご発展と、会員、ご家族の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



香川県危機管理総局危機管理課長 石川 恵市

この度の4月1日付け人事異動で、危機管理課長を務めることになりました石川恵市でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

全国で地震や局地的な豪雨等による災害が頻発しており、まさに「災害は、いつ、どこで起こるか分からない」という状況の中、いざという時には、自分や家族の命は自ら守るという「自助」に加えて、地域の方々が共に助け合う「共助」の果たす役割がますます重要になっていると考えています。

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方には、「共助」の要として、自主防災組織の結成促進と活動の活性化に多大な御尽力をいただいております。誠にありがとうございます。県といたしましても、自主防災組織の機能強化に重点を置いて取り組んでおりますが、今後とも、皆様方の御協力をいただきながら、災害への備えを万全なものとしてまいりたいと考えておりますので、ますますの御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会のさらなる御発展と関係者の皆様方の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、私の新任の御挨拶とさせていただきます。

事務局だより

平成30年 6月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼう連絡協議会総会の報告です。

かがわ自主ぼう第6回定期総会を開催

平成30年5月17日（木）e-とぴあ・かがわにおいて、香川県危機管理総局長の土岐様をお迎えして、平成30年度第6回定期総会を開催。平成30年度の施策並びに主要な取組みについて、原案どおり可決された。

基本的には年間50組織（団体）以上にわたって訓練、研修、更にはコンサル業務を実施することとして、特にポイントとなる取組みについては、



- ①県内8市9町にバランスよく活動するものとして、新たなる地域への掘りおこしを行なう。
- ②この5～6年、活動休止状態の地域・組織への活動をうながす取組みを図かる。

平成30年度県内市・町への取組み予定は次のとおりである。

高松市…	2+1+3	東かがわ市…	1+1+2
丸亀市…	2+5+3	三豊市…	2+4+2
坂出市…	1+1+1	宇多津町…	1+1+1
善通寺市…	1+1+1	まんのう町…	1+1+1
観音寺市…	2+1+1	琴平町…	2+1+1
さぬき市…	2+1+1	土庄・小豆島町…	1+1+1

計 18 (自治会等) + 19 (学校) + 18 (プラスワン)

編集後記

今月の防災減災の輪は、株式会社山倉建設 代表取締役社長 山倉様の原稿と県危機管理総局長土岐様、県危機管理総局危機管理課長石川様の着任のご挨拶を掲載させていただきました。ありがとうございました。